

ヨハネの黙示録 2 章 18-29 節

七つの教会への七つの手紙(4)ーテアテラ

2:18 また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。2:19 「わたしは、あなたの行いとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あなたの近ごろの行いが初めの行いにまさっていることも知っている。2:20 しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベルという女をなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて誤りに導き、不品行を行わせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。2:21 わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改めようとしめない。2:22 見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めなければ、大きな患難の中に投げ込もう。2:23 また、わたしは、この女の子どもたちをも死病によって殺す。こうして全教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知るようになる。また、わたしは、あなたがたの行いに応じてひとりひとりに報いよう。2:24 しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れておらず、彼らの言うサタンの深いところをまだ知らないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。2:25 ただ、あなたがたの持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていてなさい。2:26 勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。2:27 彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。2:28 また、彼に明けの明星を与えよう。2:29 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』

はじめに

2:29 「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」イエス様は七つの手紙の結論の部分でこの言葉を繰り返して言われています。諸教会に言われる事を聞きなさいとありますから、この教えとそれに伴う約束は一つの教会だけの為にあるではありません。全ての教会の信者の為にもなるものなので、私達もこの手紙を通してイエス様が自分自身に対して何を語っておられるかを聞く事が出来ます。

1. イエス様の自己紹介 (18節)

黙示録2:18 「また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。』

イエス様は黙示録全体の中でここだけ自分に対して神の子と言う名前を使っています。

黙示録1:13。それらの燭台の真中には、足までたれた衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。」ここでは人の子と呼ばれていますが、2:18ではわざと神の子という表現を使っています。この自己紹介では特に神の子として全ての権威を持って裁く為にご自分を現わしておられるのです。

イエス様が『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのよう』とこれらの特徴を言っているのは、既にその教会の中にある一部の人を裁く時が来たから、です。

第一ペテロ1:5-7。「あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現わされるように用意されている救いをいただくのです。1:6 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいきます。いまは、しばらくの間、さまざまの試練の中で、悲しまなければならぬのですが、

1:7 信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。」

5節と6節の文脈において説明する必要があります。これは罪に定められることや恐れについてではなく、一時的な悲しみの中にあっても喜びがあることについて述べているのです。本物の信仰は金よりも価値があつて尊いから、試される事によって更に聖められて強められて行くだけです。

黙示録19:11-12「また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実。」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。19:12その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。」その続きも見てみましょう。

黙示録19:15-16「この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。19:16 その着物にも、ももにも、「王の王、主の主。」という名が書かれていた。」

この19章の箇所は両方、最後の裁きの時、つまり、この世の裁きの時について述べています。燃える炎のような目、そして神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれるから、光り輝く真鍮のような足、ここではこれらと同じ表現を使っています。幸いな事はイエス様の信者が一人もこの裁きに会う事はないということです。

ヨハネ3:16-18 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。」

御子を信じる者は裁かれないと明確に書いてあるのは、この世と共に永遠の滅びに行く為に裁かれれないということです。イエス様をして信じて自分の主として告白しているなら、救われると聖書にあるから安心することが出来ます。

それでは、テアテラの教会の信者の一部の人の裁きの時がもう来ているのはどういう事でしょうか？

コリント第一11:30-32「そのために、あなたがたの中に、弱い者や病人が多くなり、死んだ者が大ぜいいます。11:31 しかし、もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。11:32 しかし、私たちがさばかれるのは、主によって懲らしめられるのであつて、それは、私たちが、この世とともに罪に定められることのないためです。」

先週も、クリスチャンに対する神様の訓練について話したので今日はあまり話しませんが、自分から悔改めて罪を捨てる為に、イエス様は十分な時間と機会を与えて下さいますが、それでも悔改めないなら、自分の信者が聖められてこの世と共に永遠の滅びに行かないように、今、この地上の人生の中で愛のむちとして裁いて下さいます。全ての信者は必ずある程度これを経験しますが、それは滅ぼす為ではなくて救われる為なのです。後から、必ずそのことを感謝するようになります。自分が神の子どもである証拠だし、それによって更なる祝福も後で与えられます。一番極端な場合は体の死に至る事もあり得ますが、それでも魂は救われます。

2. イエス様の励ましの言葉 (19節、24-25節)

黙示録2:19「わたしは、あなたの行ないとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あなたの近ごろの行ないが初めの行ないにまさっていることも知っている。」

イエス様はエペソ教会とペルガモ教会への手紙と同じように、叱る言葉を言う前に励まして力を付けています。しかも、この教会の最初の行いよりも、近頃の行いの方がまさっていると彼らの進歩を認めています。

黙示録2:24-25「しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れておらず、彼らの言うサタン深いところをまだ知らないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。2:25 ただ、あなたがたの持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていないさい。」

つまり、叱った後でも、イエス様の励ましの言葉の中で優しさが現されています。偶像礼拝とそれに伴う不品行の罪に堕っていない人々に他の重荷を何も負わせない、というところを読む時、他の箇所にある有名な招きを思い出します。

マタイ**11:28-30**。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。**11:29** わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

イエス様の信者として疲れ切っていて、しんどい生き方をしているなら、それはあなたの考え方や生き方が立法的な宗教になっているという明確な症状です。イエス様の教えている安らぎのある生き方の正反対です。当時の宗教の指導者達、パリサイ派と律法学者達は正にそんな宗教を人々に負わせていたため、イエス様はそんな宗教から人々を開放して霊的に休ませて安らぎを与える為に招いていました。はっきり言いますが、教会の牧師や指導者が余計な重荷をあなたに負わせようとしたら、しっかり断って下さい。その牧師や指導者は間違っています。イエス様は絶対にそんな重荷を誰にも負わせないで、どんなことでも、誰に対しても、強制しませんでした。

使徒の働き**15:28-29**「聖霊と私たちは、次のぜひ必要な事のほかに、あなたがたにその上、どんな重荷も負わせないことを決めました。**15:29** すなわち、偶像に供えた物と、血と、絞め殺した物と、不品行とを避けることです。これらのことを注意深く避けていれば、それで結構です。以上。」

使徒たちと初代教会の指導者達の一番最初の会議もこの問題を解決する為に行われました。ユダヤ教から救われた信者の一部の人は異邦人から救われた信者達にユダヤ教の律法を押し付けていました。そして、会議の結論には人間だけではなくて、聖霊も、とあります。絶対に必要な事以外、言い換えれば、罪や害になる事を避ける事以外に、何も重荷になる事を信者達に負わせない事が神様の御心です。

コリント第二**3:15-17**「かえって、今日まで、モーセの書が朗読される時はいつでも、彼らの心にはおおいが掛かっているのです。**3:16** しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。**3:17** 主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。」

立法的な宗教、つまり、規則を守る事による宗教は人の心と思いを暗くしてしましますが、聖霊が働いているところには自由が与えられます。もちろん、聖霊の自由は罪を犯す自由や自分も含めて人に害を与える自由ではありません。逆にそれは悪魔の嘘の自由なので、その特徴は自分勝手な無責任の自由です。残念ながら、テアテラの教会の中に悪魔の嘘の自由に従って生きる人達もいたので、イエス様は厳しく叱って警告していました。

3. イエス様の叱る言葉と警告。(19-23節)

黙示録**2:20-23**。「しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベルという女をなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて誤りに導き、不品行を行なわせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。

2:21 わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改めようとしない。**2:22** 見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。また、この女と姦淫を行なう者たちも、この女の行ないを離れて悔い改めなければ、大きな患難の中に投げ込もう。

2:23 また、わたしは、この女の子どもたちをも死病によって殺す。こうして全教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知るようになる。また、わたしは、あなたがたの行ないに応じてひとりひとりに報いよう。」

これは今までで一番厳しい警告ですが、先ほど読んだコリントの教会にも、弱い者や病人が多くなり、死んだ者も大勢いるとコリント第一**11**章に書いてありました。これは極端な事例ですが、コリントの教会にも、不品行が大きい問題になっていたという共通点があります。それは異邦人の中にもないぐらいの不品行と第一コリント**5:1**に書いてあります。この裁きは体が滅ぼされる為ですが、それでもそれによって霊が主の日に救われる為です。幸いにその人は悔い改めて第二コリントの手紙で使徒パウロは教会に再びその人を受け入れられるように書きました。テアテラの教会に対するイエス様の裁きの目的も、悔改めるように導くことです。優しさを持って悔い改める機会を与えた

ものの、悔い改めようとしなから、もっと厳しい方法で取り扱うしかありません。これを正しく理解すれば、イエス様の哀れみ深さと私達に対する忍耐と愛の大きさが分かります。

エペソ3:18-20. すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、3:19 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。

3:20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、」

4. イエス様の約束 (2:26-28)

黙示録2:26-28 「勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。2:27 彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。2:28 また、彼に明けの明星を与えよう。」

七つの手紙の全ての約束は勝利を得る者に与えられていますが、ここだけその意味も説明されています。26節に「勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には」と書いてあります。そのわざについてヨハネの福音書を見てみましょう。

ヨハネ6:28-29. 「すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。」6:29 イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」

と言う事は最後まで信じ続ける人にイエス様の全ての約束が与えられているのです。

テアテラの教会に宛てた手紙に書いてある約束を二つの部分に分けて見て頂きたいと思います。最初は、26-27節に「諸国を支配する権威」と「鉄の杖を持って土の器を打ち砕くように彼らを治める。」とあります。それをまとめて言いますと「私自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。」ということです。これは凄い約束ですが、イエス様の信者は永遠の命を持って天国で何もしないでじっとしているわけではありません。この世の裁きと支配にイエス様と共に参加する事になっています。この手紙は最初に裁きから始まって、こうして最後の結論にも裁きについて書いてあります。最初の部分は信者の裁きですが、最後の部分の裁きはこの世の裁きなので、信者はその時に裁かれないで逆にイエス様と共に世の裁きに参加します。

コリント第一6:2-3. 「あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるはずなのに、あなたがたは、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。

6:3 私たちは御使いをもさばくべき者だ、ということ、知らないのですか。それならこの世のことは、言うまでもないではありませんか。」

信者が参加するのはこの世の裁きだけではなくて罪を犯して落ちた天使の裁きも、つまり悪霊の裁きもそうです。当然、罪を犯していない天使は裁かれません。

人間的な考えでは神様の裁きが単なる処罰だけとして考えてしまいましたが、聖書にはいつも、神の裁きの二つの側面が同時に書いてあります。正しくないものを罰すると同時に神様が正しいと認められるものの正しさを公に証明されるという事です。一番明確な実例はイエス様の死と復活です。イエス様は唯一の全く罪のない神の子として私達の身代わりとして罪とされました。つまり、十字架の上で罪と呪いになる事によって罪に対する神の裁きを代わりに受けて下さいました。でも、神様はそのままで終わらせないで、3日経ってからイエス様を死者の中からよみがえらせて、しかも、公に多くの信者達に復活している姿を見せてイエス様の正しさを証明して下さいました。さらに今日の最初のポイントで一緒に見た黙示録19:15-16にあるように、イエス様の正しさを全人類の前で公に証明される時が定まっています。それは王の王と主の主としてイエス様がこの地上に再び来られる時です。未信者にとって大変悲しく恐ろしい時ですが、イエス様の信者にとっては逆に最高の喜びと最高の祝福の時になります。イエス様の正しさが公に証明されると同時に、イエス様の信者達の正しさも公に証明されます。全ての私達の受けた不公平な事や不当な事が正しく裁かれて公に証明されます。それを分かって信じているなら、どんな悪を受けても、神様に任せる事が出来ます。ペテロ第一2:23 「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅す事をせず、正しく裁かれる方にお任せになりました。」

これは今、何でも赦して、憎しみや恨みや、悪い否定的な思いと感情に心が支配されない唯一の方法です。最終的に負ける可能性や損する可能性のない保証があります。

まとめ (28節)

黙示録2:28-29 「2:28 また、彼に明けの明星を与えよう。2:29 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」

結論に含まれている約束の最後の部分ですが、明けの明星の意味が明確に書いてある箇所を見て頂きましょう。

黙示録22:16-17 「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことをあなたがたにあかした。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」

22:17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください。」と言いなさい。渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。」

イエス様自身が輝く明けの明星です。イエス様の信者達は花嫁としてイエス様に与えられて、そして、イエス様は自分自身の全てを私達に与えて下さいます。私達はこれらの全ての祝福をタダで、イエス様の恵みによって与えられます。これを信じている時に、「イエス様、早く来て下さい」と言う願いを持って生きるようになります。

黙示録3:21 「勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。」